

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26750266

研究課題名(和文) 現代イランにおける東洋的身体技法の実践とイスラーム的転回をめぐる人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Approach to Karate and Yoga as a part of 'Islamic' Culture in Contemporary Iran

研究代表者

黒田 賢治 (KURODA, Kenji)

国立民族学博物館・現代中東地域研究国立民族学博物館拠点・特任助教

研究者番号：00725161

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代イスラームの展開を「われわれ」の社会との接合性という観点から再検討することを目的に、1979年の革命を経てイスラーム的理念に適う政治・社会運営の実施を目指す体制が樹立されたイランにおける空手の展開について実証的に検証した結果、ガラパゴス状況で起こったのではなく国外の実践者とのネットワークがありながらも戦前日本における武道の道化と類似的構造をもつ現象が起こってきたことが明らかになるとともに、イスラーム化のプロセスが西洋的な近代と十分に接合可能な構造を育んできたことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research made clear that Islamization after the revolution encouraged to indigenization of cultural matters which derived from Un-Islamic cultural context. This result was based on my series of research on the development of Karate culture in contemporary Iran including before the revolution.

研究分野：地域研究

キーワード：イスラーム 空手 イラン

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、現代の中東をはじめとした現代のムスリム社会において、イスラーム独自のシステムや価値がイスラーム復興現象を通じて顕在化してきたと同時に、西洋との対比から分析されてきた。西洋近代とは異なる「近代性」をもつ現象であり、西洋近代の制度が内包する価値に対するオルタナティブな側面が当事者であるムスリムだけでなく、研究者の間でもその特殊性が強調されてきた。イスラーム復興が常態化してきたなかで、西洋近代とは異なるイスラームの特殊性を強調することが、果たして妥当な現象に対する理解であるかを問う必要性があるのではないかという問題関心から、本研究計画に着手した。

2. 研究の目的

上記で述べたようなイスラームの特殊性を強調することは、単純化して言えば、そのような強調は、イスラーム復興という現象を西洋の近代性とは異なる文化一般の特殊事例として理解させかねないと同時に、理解困難な異なる他者としてのイスラームを創出しかねない危険性をも孕んでいた。

それゆえ本研究の目的は、西洋近代とイスラーム的近代の連続性と断続性を再検討することにあった。

3. 研究の方法

これまでの研究においてイスラームの特殊性が強調されてきた背景の一つには、西洋と東洋との歴史的関係から、西洋近代との差異を明らかにするイスラーム研究の立場にも意義がある。それゆえこれまでの研究アプローチとは異なる事例や着眼点によるアプローチによって検討する必要がある。

これまでの西洋の事物、特に西洋の社会・歴史的背景をもった事物とイスラームとの関係からイスラームについてアプローチするというのではなく、敢えて非西洋由来の事物でありながら、イスラームとは異なる社会・歴史的背景をもちつつ西洋近代の影響を受けて変容した事物とイスラームとの関係からアプローチするという着想から、空手やヨガとイスラームとの関係について検討しようと考えた。というのも、空手は琉球で培われた武術が近代日本において武道として体系化された身体技法であり、世界的にスポーツとしてムスリム社会にも展開してきたためである。そこでムスリム社会における両者の展開、特にムスリム社会のなかでも1979年の革命を経て、イスラーム的理念に適った政治・社会運営の実施を標榜するイランにおいて、どのような実践者の解釈や実践に関わるエージェンシーを通じて、「イスラーム化」されてきたのかを、文献資料並びにフィールド調査を通じて明らかにし、研究の

目的を遂行しようとした。

4. 研究成果

平成 26 年度

イランにおける空手実践の歴史的展開について初期の空手道の普及と指導方法について資料読解と臨地調査を実施した。資料読解はイランにおける近年のインターネット普及を背景とした、実践者自身のイランにおける空手道の歴史的記述を中心に行った。その結果、イランにおいては空手道が紀元 500 年のインドに始まり、中国を経て琉球、日本で花開いた身体実践として捉えられており、1500 年以上の歴史的深度をもつ身体実践であることが一般的な認識として広がっているというが明らかとなった。またイランにおける空手道の始まりは、1970 年代に遡るとともに、日本から直接イランに広がったのではなく、イランに生まれフランス、カナダへ移住した「完全会」の創始者ファルハード・ヴァーラステ氏によってもたらされたことが明らかとなった。さらにイランの空手道の流派が「完全会」に始まることで、いわゆる伝統派、フルコンタクトの空手道のいずれも一つの空手道団体に統一されていることが明らかとなった。

こうした歴史的な展開についての資料調査に加え、空手道とイスラームとの関係を明らかにするために、イランにおける空手文化の始まりをなした「完全会」における精神面での指導方法について検討するため、カナダのトロントおよびロサンゼルスでヴァーラステ氏の指導を受けた空手家への聞き取り調査を行った。その結果、精神面での指導よりも技術面の指導を重視してきたことにより、精神面の修行については実践者個人に委ねられてきたことが明らかとなった。つまり精神面の修行が個人に委ねられてきたがゆえに多様な文化的・宗教的解釈が可能となり、イスラームへの読み替えも可能になってきたことが明らかとなった。

平成 27 年度

イランの空手道の史的展開を明らかにすることを目的に、文献調査及びイラン空手関係のウェブサイトの調査に加え、イランにおけるフィールド調査を実施するとともにペルシャ語の文献資料収集に当たった。文献調査に関しては、スポーツ人類学の議論の整理を行うとともに、イランにおけるスポーツ文化に関する英語文献の調査を進めた。その結果、イランにおける「外来」スポーツに関しては、同国において国民的スポーツであるサッカーを含め、1979年のイラン革命とそれに続くイラン・イラク戦争の期間において停滞期にあったものの、空手およびテコンドーに関してはその例外として発展してきたことが明らかとなった。

またイランにおけるフィールド調査として、

イラン・イスラーム共和国テヘラン市においてイラン空手連盟本部事務所および同連盟テヘラン州管轄事務所、および連盟付属の空手施設や町の道場において聞き取り調査を実施した。その結果、いわゆる伝統派空手とフルコンタクト空手など競技上のルールが異なる空手の流派が、連盟にそれぞれの部門ごとに組織されるとともに、連盟が段位の管理を行っており、イラン独自の体系化が行われていることが明らかとなった。だが同時に、各国の流派の本部との繋がりも有しており、昇段等に関する結びつきも維持されているという、空手道場の対立のない二重の帰属が可能となっていることも明らかとなった。

平成 28 年度

当初の計画では、1・2 年目を空手の事例研究に、3・4 年目にヨーガの事例研究とし、両者の展開を比較することを計画したが、ヨーガについて新たに計画を進め空手の研究成果をおろそかにするよりも、空手に限定した研究に着手することに、研究の計画を変更した。

空手連盟本部や連盟が管理する道場に加え、連盟の文化部部長を務める人物が代表をつとめる空手団体に着目し、参与観察を実施した。同団体の本部及び支部は、いずれもテヘラン市内のモスクの敷地内に道場を構えており、稽古の始まりや終わりには祈願（ドアー）やクルアーンの朗誦が行われていた。また成人男子の稽古の開始前あるいは終了後が、日没の礼拝時間と重なりを持つことから、敷地内のモスクで集団礼拝を行っているなど、空手の稽古とイスラーム実践が重なりを持っていた。さらに一般的な空手道場においては、稽古の掛け声として日本語に順ずる言葉が用いられるものの、同団体においてはそうした言葉はまったく使われず、代わりに平易な宗教的語彙が用いられていた。こうした空手団体は、先行研究で指摘されてきたように 80 年代に戦時下に置かれた国家がスポーツ活動の支援を中止した際に例外として支援された、体制のイスラーム・イデオロギーを強化させるモスクを中心とした格闘技スポーツの活動を引き継ぐものであると評価できることが調査から明らかとなった。

しかしながら、こうした活動は、団体代表が和道流空手道の故鈴木辰夫氏の指導を受けたことがあることや和道流の競技会に練習生が参加してきたことから、ガラパゴス化によるものではなく、近代スポーツの枠組みにありながら、異文化を自文化へと翻訳する現代イラン的展開の特徴として解釈可能であることを明らかにした。

平成 29 年度

これまでの研究成果の統合と同時に、積極的な研究成果発信を第一とした研究計画を実施した。昨年度の計画変更のように、空手に限定しながら、イスラームを媒介とした異

文化の事物の受容のプロセスについて研究成果の統合を行った。

イラン革命後、新たなイスラーム国家の理念を共有する団体によって、空手道を新国家が推奨する理念と結びつけてきたことがこれまでの調査過程で明らかになった。このような試みは、近代から太平洋戦争中にかけて日本における武道の発明とイデオロギー化とパラレルな現象として相対化することが可能であることを指摘した。端的に言えば、イランにおける空手の「道」化が、革命後のイランで一部の団体においては展開してきたということである。大多数のイランの空手団体においては、このような「道」化が進んできたわけではなかったものの、「道」化した空手が存在することによって、空手の存在がイスラーム的であるとしてイスラーム国家にとっても受容されることになった。その結果、イラン革命後に例外的に国家によって推奨された近代スポーツとして、80 年代半ばには国際大会への復帰が可能となり、イランの空手文化の発達が起こってきた。このような部分的なイスラームとの繋がりが、全体としての事物の受容とさらなる文化的発展を生み出してきたことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

Kenji KURODA 2017. "Pioneering Iranian Studies in Meiji Japan: Between Modern Academia and International Strategy." *Iranian Studies* 50(5): 651-670. (査読あり)

Kenji KURODA 2015. "Between Traditional Education System and Iranian "New Tradition": New Phase of "Export of Revolution" In Contemporary Shiism." *Asian Studies International Journal* 1(1): 29-35. (査読あり)

[学会発表](計 10 件)

Kenji KURODA "Training Body for the Hidden Imam: the Creation of an Alternative Public Space and Indigenized Karate Culture in Contemporary Iran." International Convention of Asia Scholars 20 Jul 2017

Kenji KURODA "Praying to God and Playing Karate: A Study on Indigenization of Japanese Sports in Contemporary Iran." Workshop: "Global Flow of Cultural Knowledge and their Afterlives: Between Japan and the Middle East." 18 Dec. 2016
ほか本研究に関連した研究報告として外国語による国際学会等研究集会での研究報告 4

件、日本語による国内研究会で研究報告 4 件
報告

〔図書〕(計 1 件)

黒田賢治『イランにおける宗教と国家』ナ
カニシヤ出版、2015 年、272 頁。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

黒田 賢治 (KURODA, Kenji)

国立民族学博物館・現代中東地域研究国立民
族学博物館拠点・特任助教

研究者番号：00725161